

生涯教育を楽しく・住みよい環境を考える公民館づくり

金沢市材木公民館

はじめに

材木地区は、町中に女川と呼ばれる浅野川の清流、白山山系の遠景、四季をとおして市民に親しまれている卯辰山、そして、歴史を伝える町屋等々伝統環境、伝統文化の息づく地区です。

材木地区の由来は、千六百十六年に城下町の再編に当たり、石川門前あたりから現在の材木町に移転した時に立ち退き料として材木が与えられたという説と現在地に材木蔵があったという説があります。これまで多くの方々に支えられながら発展と時代の返遷はありましたが、変わらぬものは「まともりのいい町」「心が和む町」これが材木の「粹」だと思います。

材木公民館は、昭和二十五年に設立されて依頼、そこに住む人達の生涯学習の拠点として、また地域の茶の間として「ここに来れば何かがある」「憩えるところや」と親しまれ、地域の方々に気軽に利用して頂けるように諸活動を展開してまいりました。



地域コミュニティ事業

文化教養部の中に四つの事業がありますが、その中の一つの事業として地域コミュニティ事業があります。

歴史遺産や伝統文化を探りつつ、材木地域のありようを考察する生涯学習の推進の一つとして、平成二十二年から地域コミュニティ事業を行っています。この事業の中では、故郷の偉人や伝統行事・くらし等を探りながら、これからのまちづくりに繋げていきます。今年、「お寺でジャズコンサート」や「神社・寺院の歴史についての講演会」を行いました。慈船寺、宇多須神社や廣濟寺での講演会では、藩政期から明治維新時代までの歴史を探究する楽しみが増し、地域の歴史・文化を再認識することが出来ました。



浅野川清掃活動

昭和二十七年、二十八年の集中豪雨により被害を受けた十四町内会有志の自発的な清掃活動から始まった浅野川清掃。昭和二十九年に「浅野川を美しくする会」が発足し、今日まで春と秋の二回、地道な活動が進められて来ました。平成十九年から材木公民館においても活動の必要性和重要性を理解し、事業として積極的に参加する

と共に地域の皆さんにも参加協力を周知したところ、子どもから大人まで多くの方々が参加するようになりました。今では、地区以外の民間企業やボランティアの参加も頂き、鈴見橋から中の橋までの両岸の清掃を実施しています。今後、浅野川清掃活動が浅野川上流から下流域の取り組みとして故郷に対する愛着と誇りを持ちながら浅野川を美しくしようという運動に繋がっていかれば良いと思います。





「ウォーキング」
材木地区の良さを再認識して頂くとう始めたウォーキングですが、参加者自身の健康管理に大いに役立っています。
年三回ウォーキングを実施していますが、リピーターも増え、顔なじみになり交流の場となっています。
また、地域の歴史に詳しい参加者の方から興味深い話を聞くことが出き、皆さんとても有意義な時間を過ごしています。



「各種団体親睦 グラウンドゴルフ大会」
これからのまちづくりには、関係団体が連携して、安全・安心な住みよい環境づくりの推進に努めなければなりません。そこで各種団体の絆をより一層深めるためにグラウンドゴルフ大会を開催しています。
グラウンドゴルフは生涯スポーツとして年齢を問わず誰でも参加できる競技です。スポーツを通してコミュニケーションを取り、会話をすることでそれぞれの団体の取り組みも理解し協力できるので



「地域一丸で取り組む文化祭」
毎年、文化祭には地域の小学校・中学校の児童や生徒の皆さんに出演して頂き、地域の輪を広げました。今年も、「よりそおう地域と共に」をテーマに掲げ、オーピングを金沢商業高校のチアリーディング部の皆さんに務めて頂きました。エネルギーで若いパワーがみなぎる演技で会場を明るく華やかに彩りました。
また、今年の文化祭のメイン事業として北陸大学、サムライ(株)との共催で「地域健康フェア」を大々的に開催しました。今や高齢化社会となり、健康への関心も高く、無料で診断や相談が出来るにあつて大盛況でした。
更に地域の皆さんから出展頂いた展示コーナーでは、いずれ劣らぬ顔負けの作品が並べられ見学者から感嘆の声が上がっていました。また、茶席、喫茶コーナー、模擬店でも大いに賑わいを見せていました。

「結び」
少子高齢化が進み、全国的にコミュニティ意識の希薄化や社会教育の低迷で、一割参加率といわれていますが、材木地区は、地域活動に携わる全ての方々が「材木地区」に愛着を持って、それぞれ熱心に活動しています。
当材木公民館においても生涯学習を楽しく愉快に享受して頂く場としての企画・立案・運営を行い、これからも地域コミュニティの中心的役割を担うと共に地域の連携親睦を深め、安全・安心な住みよい環境を醸成しなければならぬと考えます。公民館事業に触れていない未経験者の方にも気軽に参加して頂けるよう各種事業の見直しを図りながら、皆さんと共に街づくりの輪を広げていきたいと思っています。

